

会津若松市戊辰 150 周年記念事業



住民参加型 タップダンス 公演 第3弾

AIZU NEW ERA



中山 貴踏
(構成・振付・TAP)



坂本 弘道
(チェロ)



御木 惇史
(ドラム)

アシスタント TAP 秋山善紀・斎藤道代・中村美奈子



秋山 善紀 安齋奈保子 五十嵐 新 石川 覚士 鶴川凜珠夢 遠藤八重子 小原さくら 金子奈緒美
兼子 充弘 菊地 桜子 菊地 里美 小杉 龍画 斎藤 道代 三瓶あずさ 清水 奏苗 清野 晃紀
清野 奈津 高野 光恵 高原 豊 堂腰 尚子 中村美奈子 野木 見子 野中美和子 半澤 典子
星 美千子 細矢 智美 真壁もと子 松山ひろみ 山内 信人 山内 清史 山田ひより 弓田 和美

※前回公演 (H30年1月) の写真です

© nazz

2019年 3月3日(日) 午後2時開演 (午後1時30分開場) 会場：会津若松市文化センター

自由席(税込)：一般 2,000 円、大学生以下 1,000 円

12月8日(土) 前売開始

前売券販売所：會津風雅堂、アピタ会津若松店、栄町オサダ、アピオスペース、會津風雅堂ホームページ

お問い合わせ・お電話でのお申し込み：會津風雅堂 TEL. 0242-27-0900 (月曜休館)

■主催：公益財団法人会津若松文化振興財団

■共催：会津若松市教育委員会

■後援：福島民報社、福島民友新聞社、テレビユー福島

AIZU NEW ERA

會津 TAP 4 年目となる今回は、會津を中心に郡山、福島、伊達、いわき、仙台、新潟、札幌から 32 名の応募があり 5 月から稽古を重ねています。昨年から参加者の皆だけで振付を創作するシーンを作りましたが、今回はそれを継続しながら“戊辰”をテーマにした創作にも取り組んでいただきました。職業も年齢も性別も経験もバラバラな参加者の皆が一つになり、會津という土地の ID を TAP で表現します。福島の會津の TAP は、他の地域には無いオリジナリティと熱さがあります。ここでしか体感できない“祭り”にぜひお越しく下さい。

中山 貴踏

Profile



中山 貴踏 Tap Dancer

15 歳から STREET DANCE をはじめ、21 歳で TAP に出会う。2006 年 熊谷和徳氏 青山円形劇場 5DAYS 公演 "TAPPERS RIOT" をきっかけに KAZ TAP COMPANY "TAPPERS RIOT" オリジナルメンバーとして、全国劇場公演、LIVE、ワークショップ、メディア出演等を経て、2013 年に地元福島へ拠点を移す。現在は文化芸術事業、イベント関係者と連携を取り、県内、県外劇場公演やアート PROJECT、舞台構成、演出、振り付け、ライブ、ワークショップ、文化庁委託事業アウトリーチを行なっている。

2017 年に FUKUSHIMA TAP PROJECT を立ち上げ、福島から全国、世界を繋ぐ事を目的とし、TAP の歴史と文化に敬意を持ち精力的に活動中。2018 年に新たに UNDERGROUND CONNECTION をスタート。



坂本 弘道 Cellist

チェロ奏者、作曲家。即興主体の多種多彩なセッション、ソロ公演、「パスカルズ」などのバンド活動、早川義夫、遠藤ミチロウ、友川カズキ、UA、川上未映子、荒井良二、中村達也、七尾旅人など共演・サポート多数。近年は特に舞台の音楽を数多く手掛ける。ここ最近では、『関数ドミノ』、シスカンパニー『黒塚家の娘』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『お蘭、登場』、流山児事務所『オケハザマ』、現代サーカス・ながめくらしつ『うらのうらは。』、KERA MAP『修道女たち』、『誰もいない国』、シビウ国際演劇祭参加・台湾演劇團 × 流山児事務所『馬克白：マクベス』等々。音楽ドキュメンタリー映画『We Don't Care About Music Anyway』（監督：セドリック・デュピール & ガスパール・クエンツ）出演。映像作品では、『緑子 / MIDORI-KO』（監督：黒坂圭太）、『zone 存在しなかった命』『みえない汚染 飯館村の動物たち』（監督：北田直俊）、『きよこのくら』（監督：中村智道）



御木 惇史 Drummer

6 歳より和太鼓を始める。13 歳、ドラム演奏を見て感動し、これをきっかけにドラムに没頭。14 歳ドラマーとしてプロデビュー、プロ演奏活動を開始。2003 年、胡弓奏者・楊興新のコンサート・ツアーに参加。2005 年よりソロ活動開始。2014 年、音楽 × ART イベント「GROOVE DE NIGHT」主宰・運営・出演。ジャズベーシスト鈴木勲と共演。2017 年、シンガーソングライター Michael Kaneko バンドメンバーとして FUJI ROCK FESTIVAL ほか全国の音楽フェスティバルへ出演。同年、サーフィン・スケートボード・スノーボードのファッションブランド <VOLCOM・ボルコム> が開催した世界同時グローバルコンテスト "ThisFirst" で、この地球上で最も情熱を持った 15 名（日本からは 1 名）に選ばれ、日本代表・グランプリを受賞。一定期間 <VOLCOM> 他、関連会社とスポンサー契約を結ぶ。同年 9 月、アメリカ・テキサス州オースティンで開催されたファイナルパーティーへ招待され、ドラム・和太鼓・パーカッションをミックスさせたオリジナルセットでソロパフォーマンスを披露。魂の込められたドラミングはジャンル・世代の壁を超え、様々なシーンで高い評価を受けている。現在ではドラム、和太鼓、パーカッションを叩き分ける唯一無二の打楽器奏者である。



タップ ブラン アイツ TAP blanc Aizu

住民参加型タップダンス公演 第 1 弾「LIFE GOES ON」公演開催にあたり公募によって集まった一般参加者によって命名されたチーム名。“blanc（ブラン）”はフランス語で“しろ（白）”を表す言葉。會津のイメージ（鶴ヶ城のしろ、白虎隊のしろ、雪国のしろ）と“白”が持つイメージ（始まり、拡がり、可能性）から、會津 TAP の活動が未永く続き、會津に TAP 文化が根付く事を祈って命名。以降、會津で行われている住民参加型タップダンス公演の際に、公募によって集まった参加者のチーム名として使用。